

発達障害
精神障害
認知症
医療的ケア
高次脳機能障害
フレイル

and more...



令和5年度
京都市地域リハビリテーション

推進研修



実
習



移乗方法
ベッド上移動
起き上がり
集団体操
個別運動



講座プログラム（会場＋オンライン）

ハイブリッドでの
研修です！

	日 程	時 間	テーマ 講師
1	7月3日(月)	9:30～11:00	支援者のストレスマネジメント ～働きやすい職場づくりのために～ 龍谷大学 短期大学部 社会福祉学科 教授 松田 美智子 氏
2	7月10日(月)	9:30～11:30	まずはここから！発達障害入門 京都市発達障害者支援センター「かがやき」センター長 京都市児童福祉センター 児童精神科医師 村松 陽子
3	9月6日(水)	13:30～15:00	精神疾患の薬物療法 ～薬との上手なつきあい方を支援するために～ ★ 京都市こころの健康増進センター 所長 精神科医 波床 将材
4		15:20～16:50	嗜癖(しへき)と依存 ～さまざまな依存症治療へのプロセス～ ★ 安東医院 院長 精神科医 安東 毅 氏
5	9月7日(木)	9:30～11:30	発達障害の子を持つ親を支えるために大切なこと 鳥取大学 大学院医学系研究科 臨床心理学専攻 臨床心理学講座 教授 井上 雅彦 氏
6	9月21日(木)	10:00～11:30	医療的ケア児の理解と支援 ～医療的ケア児の保育実践から～ NPO法人 i-care kids京都 代表理事 藤井 路 氏
7	9月22日(金)	13:30～15:00	気分(感情)障害の理解と支援 ～こころの健康問題を正しく理解するために～ ★ 京都市こころの健康増進センター 相談援助課 担当係長 精神科医 小林 祐子
8		15:20～16:50	統合失調症の理解と支援 ～治療をしながら社会参加や自立をめざすために～ ★ 京都大学 大学院医学研究科 脳病態生理学講座 助教 精神科医 杉田 尚子 氏
9	9月28日(木)	13:30～15:00	高齢者のための摂食・嚥下機能支援の実践 ● 京都リハビリテーション病院 言語聴覚士 徳島 大樹 氏
10	10月6日(金)	9:30～11:30	強度行動障害の背景の理解と支援の実践 社会福祉法人 南山城学園 地域福祉支援センター 島本 センター長 奥村 一貴 氏
11	10月12日(木)	9:30～11:30	発達障害をポジティブに生きる ～それぞれの視点から見た景色～ 精神保健福祉士 社会福祉士 神戸市発達障害ピアカウンセラー 笹森 理絵 氏
12		13:30～15:00	認知症の理解と支援 ～西院デイサービスでの取組から～ ● 社会福祉法人 京都福祉サービス協会 高齢者福祉施設 西院 作業療法士 田端 重樹 氏
13	10月16日(月)	10:00～11:30	在宅生活を支える栄養管理のポイント ● 大阪夕陽丘学園短期大学 食物栄養学科 准教授 滋賀県立総合病院 管理栄養士 高嶋 典子 氏
14	10月19日(木)	13:30～15:00	神経難病の方の、疾患の進行に伴う在宅支援の実践 塚本医院 院長 内科・小児科医 塚本 忠司 氏
15	10月27日(金)	13:30～15:30	自立支援に繋げる福祉用具の選定と適切な支援の方法 ● 住まいと介護研究所 所長 理学療法士 主任介護支援専門員 谷口 昌宏 氏
※ 16	11月2日(木)	13:30～16:30	ひきこもりの理解と支援 ～人と人との関係性の再構築に向けて～ ★ 京都市こころの健康増進センター 所長 精神科医 波床 将材
17	11月8日(水)	13:30～15:30	脳障害(高次脳機能障害・発達障害・認知症)を理解するっ!! Season2 ◆ 小石川東京病院 精神科 副院長 精神科医 丹治 和世 氏 京都光華女子大学 健康科学部 医療福祉学科 言語聴覚専攻 教授 精神科医 上田 敬太 氏

	日 程	時 間	テーマ 講師
18	11月17日(金)	13:30～15:30	障害福祉サービスと介護保険サービス ～初めての支援に分かりやすい、制度の併用と連携～ 京都市左京区在宅医療・介護連携支援センター コーディネーター 奥田 敏雄 氏 ●
19	11月29日(水)	9:30～11:30	ことばのキャッチボールに必要なこと ～自閉スペクトラム症の特性に配慮した会話支援～ 実践女子大学 大学院生活科学研究科 教授 言語聴覚士 公認心理師 長崎 勤 氏

※ 会場は、「京都市地域リハビリテーション推進センター 1階研修室」で、定員は80名(会場30名、オンライン50名)です(16の講座を除く)。
 ※ 16の講座のみ、会場は「ラポール京都 2階 大ホール(当センター西隣)」で、定員は100名(会場50名、オンライン50名)です。

- ★印は「京都市こころの健康増進センター」との共催
- 印は「京都市保健福祉局健康長寿のまち・京都推進室」との共催
- ◆印は「京都市高次脳機能障害者支援センター」との共催

講座プログラム（会場のみ）

会場のみの実施に
 ないます！
 （オンラインでは
 実施しません。）

	日 程	時 間	テーマ 講師
20	8月30日(水)	9:30～11:30	重症心身障がい児・者の排痰・呼吸器ケアについて 京都橘大学 健康科学部 理学療法学科 教授 理学療法士 堀江 淳 氏
※ 21	11月9日(木)	13:30～16:30	ベッド上のポジショニングと姿勢ケアの基本 社会福祉法人 京都福祉サービス協会 人材マネジメント室 人事部 人材研修センター 研修担当部長 理学療法士 神内 昭次 氏
22	11月20日(月)	9:30～11:30	DCDに対する理解と支援 ～生活や遊びの中での生活動作の教え方～ 株式会社 児童発達支援協会 リハビリ発達支援ルームかもん 代表 作業療法士 鴨下 賢一 氏

※ 会場は、「京都市地域リハビリテーション推進センター 1階研修室」で、定員は30名です。
 ※ 21の講座は、会場設定の都合により、定員は24名です。

実習プログラム

ご希望の場所まで
 出講もします！
 定員6名。

講師は、当センターの理学療法士、作業療法士です。

	日 程	時 間	テーマ
1	6月29日(木)	9:30～11:00	現場で役立つ！介助法「移乗編」
2	7月6日(木)	9:30～11:00	現場で役立つ！介助法「ベッド上移動・起き上がり編」
3	7月13日(木)	9:30～11:00	現場に活かす！機能維持体操「座位のできる集団体操編」
4	7月26日(水)	9:30～11:00	現場に活かす！機能維持体操「臥位のできる個別運動編」

※ 会場は、「京都市地域リハビリテーション推進センター 1階研修室」で、定員は6名です。
 ※ 実習には、当センターで実施する上記「会場型」のほかに、ご準備いただいた会場に向向く「出講型」があります。
 ※ 「出講型」の内容は、「会場型」と同じです。「実習の詳細」をご覧ください。

講座の詳細(会場とオンライン)

1. 支援者のストレスマネジメント ～働きやすい職場づくりのために～

7月3日(月) 9:30～11:00

講師：松田 美智子 氏
龍谷大学 短期大学部 社会福祉学科 教授

福祉・介護の対人援助職は、「頭脳労働」「肉体労働」に加え、自身の気持ちを抑えながら利用者をケアする「感情労働」という要素が大きいため、メンタル面での不調を抱えやすい職種と言われています。

本講座では、働きやすい職場づくりや、よりよい援助の提供に活用いただくために、福祉職が抱えやすいストレスとその対処法について学びます。

2. まずはここから！発達障害入門

7月10日(月) 9:30～11:30

講師：村松 陽子
京都市発達障害者支援センター「かがやき」センター長
京都市児童福祉センター 児童精神科医師

本講座では、発達障害についての基本的な知識を整理し、理解を深めます。発達障害のある方は、どのような場面で困難さを感じ、どのような場面で力を発揮することができるのでしょうか。発達障害のある方たちの行動面や心理面の問題に対してどのような対応をすればよいのか、特性に合わせた関わり方の工夫や日常の支援の具体的な対応などについて、事例を通してお話します。

※ 9月7日、10月6日、11月20日、11月29日の講座は、受講者の方々が発達障害の基礎知識を持っておられることを前提とした内容になります。受講をお考えの方は、本講座を先に受講されることをお勧めします。

3. 精神疾患の薬物療法 ～薬との上手なつきあい方を支援するために～

9月6日(水) 13:30～15:00

講師：波床 将材
京都市こころの健康増進センター 所長 精神科医

精神障害のある方は、適切な薬物療法を継続することによって症状のコントロールが可能となる場合が多いことから、薬と上手につきあっていくことが、安定した生活を送る上で重要になります。

本講座では、薬の効果や副作用、服薬が難しくなる原因など、薬物療法の基本的な知識について学びます。

講座の詳細(会場とオンライン)

4. 嗜癖(しへき)と依存 ～さまざまな依存症治療へのプロセス～

9月6日(水) 15:20～16:50

講師：安東 毅 氏
安東医院 院長 精神科医

依存症は、飲酒や薬物使用などのコントロールが出来なくなる「病気」であり、きちんとした治療を受けることで回復が可能です。しかし、本人が、病気であることを認めないことが多く、また、周囲の人も「本人の性格の問題」、「本人の意思が弱い」などと考えて、本人を責めることになりがちのため、治療につながりにくいケースも少なくありません。

この講座では、アルコール・ギャンブル・薬物依存症について正しく理解し、治療に結びつけていくために、医療機関との連携や、本人・家族の支援について学び、事例を通して理解を深めます。

5. 発達障害の子を持つ親を支えるために大切なこと

9月7日(木) 9:30～11:30

講師：井上 雅彦 氏
鳥取大学 大学院医学系研究科 臨床心理学専攻
臨床心理学講座 教授

発達障害のある子どもは、対人関係や行動に対して様々な特性があることが多く、保護者は、日々戸惑いと葛藤を感じながら子育てをしています。保護者に対しても適切な支えがないと現実の我が子と向き合うことができないことがあります。本講座では、発達障害のある子どもを持つ保護者の悩みにどのように寄り添い支援すればいいのか、支援方法の一つのABA（応用行動分析）の概要や家族支援の必要性、子どもとのより良い関わり方のポイントについて、事例を交えてお話していただきます。

参考図書：「発達が気になる幼児の親面接：支援者のためのガイドブック」金子書房 2019

※ 会場では、講師が遠隔地からZoomで行う講義を上映する予定です。

※ 本講座は、受講者が発達障害の基礎知識を持っておられることを前提とした内容になります。受講される方は、7月10日（月）開催予定の「まずはここから！発達障害入門」を事前に受講されることをお勧めします。

6. 医療的ケア児の理解と支援 ～医療的ケア児の保育実践から～

9月21日(木) 10:00～11:30

講師：藤井 蒔 氏
NPO法人 i-care kids京都 代表理事

法人が運営し、医療的ケア児を積極的に受け入れている、小規模保育園キコレの実践から、医療的ケア児の保育の実際、家族支援についてお話いただきます。

また、医療的ケア児の心身の状況に応じた適切な保健、医療、福祉サービスの提供や、その他各関係機関との連携体制の在り方などについても考えます。

講座の詳細(会場とオンライン)

7. 気分(感情)障害の理解と支援 ～こころの健康問題を正しく理解するために～

9月22日(金) 13:30～15:00

講師：小林 祐子

京都市こころの健康増進センター 相談援助課
担当係長 精神科医

「気分障害」とは、うつ病や躁うつ病など、気分や感情に変化があるために生活に支障をきたしている精神疾患のことを指します。「うつ病」については、近年その概念に広がりが見られ、患者数が増加するとともに、状態像がきわめて多様化しています。一方、うつ状態と活力に溢れた状態を繰り返す「躁うつ病」と診断される方も、同様に増加傾向にあり、身近な疾患となってきました。

本講座では、これら気分障害に関する基礎知識や、気分障害をお持ちの方への関わり方などについて、事例を交えてお話しします。

8. 統合失調症の理解と支援 ～治療をしながら社会参加や自立をめざすために～

9月22日(金) 15:20～16:50

講師：杉田 尚子 氏

京都大学 大学院医学研究科 脳病態生理学講座
助教 精神科医

統合失調症は、約100人に1人がかかる身近な疾患です。適切な治療やリハビリテーションの継続により、病気とつきあいながら就労されている方や安定した生活を送っておられる方もたくさんおられます。一方で、再発しやすいため、症状が落ち着いていても治療を継続していくことが重要です。

この講座では、基本的な症状や経過、治療やリハビリテーション、日常生活場面での具体的な関わり方や支援の方法などについて、事例も交えてお話していただきます。

9. 高齢者のための摂食・嚥下機能支援の実際

9月28日(木) 13:30～15:00

講師：徳島 大樹 氏

京都リハビリテーション病院 言語聴覚士

食べる、噛む、飲み込むといった口腔機能の低下は、身心機能の低下やフレイルの原因になりますが、適切な支援により改善や予防が可能です。

本講座では、生活期の支援に多く関わるリハビリテーション（言語聴覚士）の視点で、摂食・嚥下機能の支援の実際について、事例を交えて分かりやすくお話していただきます。

講座の詳細(会場とオンライン)

10. 強度行動障害の背景の理解と支援の実際

10月6日(金) 9:30～11:30

講師：奥村 一貴 氏
社会福祉法人 南山城学園
地域福祉支援センター 島本 センター長

行動障害はある日突然、強度行動障害となったわけではなく、特性を持っているがゆえに経験しやすい出来事や環境による影響を受けながら成長することで、困難がより深まっていったという見方があります。そのため、障害特性に基づく適切な支援を行うことで、安定した日常生活を送れるようになるとも言われています。

本講座では、強度行動障害が起こる背景を理解し、安心して穏やかに過ごしていくためにはどうしたらよいか、適切な支援や関わり方など事例を交えてお話していただきます。

※ 本講座は、受講者が発達障害の基礎知識を持っておられることを前提とした内容になります。受講される方は、7月10日(月)開催予定の「まずはここから！発達障害入門」を事前に受講されることをお勧めします。

11. 発達障害をポジティブに生きる ～それぞれの視点から見た景色～

10月12日(木) 9:30～11:30

講師：笹森 理絵 氏
精神保健福祉士 社会福祉士
神戸市発達障害ピアカウンセラー

講師は、32歳のときに発達障害の診断を受けた当事者で、また3人の発達障害があるお子さんの子育てもされている保護者でもあります。さらに、精神保健福祉士や社会福祉士の資格も取得されており、神戸市の発達障害ピアカウンセラーとして地域の方を支える支援者でもあります。

本講座では、当事者・保護者・支援者というさまざまな視点をお持ちの講師から、発達障害の特性の理解や対応について分かりやすく解説していただくとともに、これまで経験されたことなどをエピソードを通して、具体的にお話していただき、発達障害の理解を深めます。

12. 認知症の理解と支援 ～西院デイサービスでの取組から～

10月12日(木) 13:30～15:00

講師：田端 重樹 氏
社会福祉法人 京都福祉サービス協会
高齢者福祉施設 西院 作業療法士

現在、日本では約460万人(65歳以上の高齢者の約15%)が認知症を患っているとされています。今後も高齢化が進むにつれ、認知症の方が増えていくことが予想されており、誰でもなりうることから、認知症への理解を深め、認知症になっても希望を持って日常生活を過ごせる「共生」

(認知症の人が、尊厳と希望を持って認知症とともに生きる、また、認知症があってもなくても同じ社会でともに生きるという意味)の社会を創っていくことが重要です。

本講座では、認知症の中核症状や周辺症状について理解を深め、西院デイサービスでの取組を通して、支援の実際について学びます。

講座の詳細(会場とオンライン)

13. 在宅生活を支える栄養管理のポイント

10月16日(月) 10:00～11:30

講師：高嶋 典子 氏

大阪夕陽丘学園短期大学 食物栄養学科 准教授
滋賀県立総合病院 管理栄養士

在宅生活を送る上で栄養管理が必要なケースの栄養アセスメントの流れや、具体的な支援の事例を通して、栄養の視点からできる多職種の間わりについてお話していただきます。

また、ケアマネジャーをはじめとする支援者に、気にかけてほしい栄養管理の実際について、事例をもとにお話していただきます。

14. 神経難病の方の、疾患の進行に伴う在宅支援の実際

10月19日(木) 13:30～15:00

講師：塚本 忠司 氏

塚本医院 院長 内科・小児科医

ALS（筋萎縮性側索硬化症）などの神経難病は、病勢の進行に伴い、在宅療養を維持するために、症状に合わせて、公的な介護や住宅改修、リハビリテーション、各種機器の導入などさまざまな支援が必要となり、在宅医療・介護の連携が必須となります。

この講座では、長年にわたり地域医療に携わっておられる医師から、支援されるALSなどの神経難病を中心に、疾患の特徴や症状、治療、支援の実際についてお話していただきます。また、事例を交えて地域支援の現状と難病者が抱える課題などについても考えます。

15. 自立支援に繋げる福祉用具の選定と適切な支援の方法

10月27日(金) 13:30～15:30

講師：谷口 昌宏 氏

住まいと介護研究所 所長 理学療法士
主任介護支援専門員

福祉用具選定のポイントや、用具を使った適切な支援の方法についてお話していただくとともに、選定した福祉用具を再選定する「旬」を見極めるポイントなどについても、経験豊富な講師にデモンストレーションを交えながらお話していただきます。

また、よく使用される福祉用具（手すり、スロープ、歩行器、歩行補助つえ、特殊寝台、車椅子など）だけでなく、知っておくとお得なものや、その使用方法についても紹介していただきます。

講座の詳細(会場とオンライン)

16. ひきこもりの理解と支援 ～人と人との関係性の再構築に向けて～

11月2日(木) 13:30～16:30

講師：波床 将材

京都市こころの健康増進センター 所長 精神科医

「ひきこもり」は、単一の疾患や障害の概念ではなく、その実態は多種多様です。一方で、適切な関係機関と連携し、ひきこもっている方それぞれの問題を整理することで、支援の糸口が見えてくることもあります。

本講座では、ひきこもり支援のために必要な基礎知識と支援の実際について学びます。

17. 脳障害(高次脳機能障害・発達障害・認知症)を理解するっ!! Season2

11月8日(水) 13:30～15:30

講師：丹治 和世 氏

小石川東京病院 精神科 副院長 精神科医

講師：上田 敬太 氏

京都光華女子大学 健康科学部 医療福祉学科
言語聴覚専攻 教授 精神科医

脳の機能不全の臨床に長年携わっておられるお二人の医師から、高次脳機能障害、発達障害、認知症それぞれの障害や症例について分かりやすくレクチャーしていただくとともに、事例を基にして、対談形式で現場に即した対応方法なども深めていただきます。

今回登壇いただく丹治先生は、東北大学、山形大学などで神経内科医として高次脳機能障害について診療経験を積まれたのち、昭和大学烏山病院、山形県立こころの医療センターを経て、現在は精神科医として成人発達障害の診療に携わっておられますので、高次脳機能障害と関連づけた成人の発達障害についてもお話していただきます。

18. 障害福祉サービスと介護保険サービス

～初めての支援に分かりやすい、制度の併用と連携～

11月17日(金) 13:30～15:30

講師：奥田 敏雄 氏

京都市左京区在宅医療・介護連携支援センター
コーディネーター

第一部では、昨年度に引き続き、各地域の地区医師会が設置・運営している、医療・介護・福祉の専門職を対象とした支援機関である「在宅医療・介護連携支援センター」のコーディネーターから、制度の理解や、障害福祉サービスから介護保険サービスへの移行や併用など、連携へのアドバイスや事例を通して、よりよい支援を行うために役立つ情報を提供していただきます。

また、第二部では、会場で受講される方のみ、グループワークで、事例を通じた意見交換や情報交換の場を設ける予定です。

※ 第二部は会場のみで、オンラインでは行いません。

講座の詳細(会場とオンライン)

19. ことばのキャッチボールに必要なこと ～自閉スペクトラム症の特性に配慮した会話支援～

11月29日(水) 9:30～11:30

講師：長崎 勤 氏

実践女子大学 大学院生活科学研究科 教授
言語聴覚士 公認心理師

一方的なやりとりになったり、相手の気持ちが分かりにくいなどの言語発達を示すことが多い自閉スペクトラム症の子どもとの意思疎通は難しく、気持ちの引き出し方やくみ取り方はどうしたらいいのか、どのように支援していけばいいのかなど、日々現場で悩まれている方は多いのではないのでしょうか。

本講座では、長年、言語発達、特に子どものナラティブ（語り）の発達と支援について研究してこられた講師に、自閉スペクトラム症の子どもの会話特性とその支援について、事例を通してお話していただきます。

※ 会場では、講師が遠隔地からZoomで行う講義を上映する予定です。

※ 本講座は、受講者が発達障害の基礎知識を持っておられることを前提とした内容になります。受講される方は、7月10日（月）開催予定の「まずはここから！発達障害入門」を事前に受講されることをお勧めします。

講座の詳細(会場のみ)

20. 重症心身障がい児・者の排痰・呼吸器ケアについて

8月30日(水) 9:30～11:30

講師：堀江 淳 氏

京都橘大学 健康科学部 理学療法学科
教授 理学療法士

前半は、排痰・呼吸器ケアに必要な呼吸障害の基礎、症状や特徴、変形や拘縮、側弯のある方への対応などについて、解説していただきます。

後半には、聴診の仕方や姿勢の整え方、呼吸介助、スクイーミング、体位排痰法などについて、実技やデモンストレーションを通して体験していただきます。

※ 会場での受講のみになります。

※ 実技中心の講座です。動きやすい服装でお越しください。

21. ベッド上のポジショニングと姿勢ケアの基本

11月9日(木) 13:30～16:30

講師：神内 昭次 氏

社会福祉法人 京都福祉サービス協会 人材マネジメント室
人事部 人材研修センター 研修担当部長 理学療法士

寝たきりの高齢者に関節拘縮が生じるメカニズムや、ベッド上で安楽な臥位姿勢を保持するためのポジショニング、通所サービスでも実践できる姿勢ケアのポイントについて、解説していただきます。

また、ベッド上で安楽な臥位姿勢を保つためのポジショニングの基本と、バリエーションについて、実技を通して体験していただきます。

※ 会場での受講のみになります。

※ 実技中心の講座です。動きやすい服装でお越しください。

22. DCDに対する理解と支援～生活や遊びの中での生活動作の教え方～

11月20日(月) 9:30～11:30

講師：鴨下 賢一 氏

株式会社児童発達支援協会
リハビリ発達支援ルームかもん 代表 作業療法士

DCD（発達性協調運動症）とは発達障害の一種で、DCDの方は、身体機能に問題がないにもかかわらず、はさみや食器の使用、書字、スポーツがうまくできないなど、協調された運動スキルの獲得や使用が困難となり、学校生活、遊びなどの日常生活活動にも影響が生じてしまいます。

本講座では、いわゆる「不器用」といわれるDCD児の生活動作について、うまくできない原因や発達段階に応じた具体的な支援方法などを、療育での事例を通してお話していただきます。

※ 会場での受講のみになります。

※ 本講座は、受講者が発達障害の基礎知識を持っておられることを前提とした内容になります。受講される方は、7月10日(月)開催予定の「まずはここから！発達障害入門」を事前に受講されることをお勧めします。

実習の詳細

＜会場型＞ 講師は、当センターの理学療法士・作業療法士です。

1. 現場で役立つ！介助法「移乗編」

6月29日(木) 9:30～11:00

立ち上がりや方向転換など、移乗に関連する動きのしくみを考えます。また、利用者の身体機能や体格に合わせたさまざまな種類の移乗方法などについて学びます。

2. 現場で役立つ！介助法「ベッド上移動・起き上がり編」

7月6日(木) 9:30～11:00

ベッド周囲の動作（臥位での上方移動や側方移動、寝返り、起き上がりなど）の動きのしくみを考えます。また、利用者の身体機能や体格に合わせたよりよい介助方法について学びます。

3. 現場に活かす！機能維持体操「座位でできる集団体操編」

7月13日(木) 9:30～11:00

主に高齢者を対象にした集団体操について、より効果的かつ安全に実施する方法について学びます。

4. 現場に活かす！機能維持体操「臥位でできる個別運動編」

7月26日(水) 9:30～ 11:00

障害のある方や高齢者が定期的に身体を動かすことの重要性和、日々の支援の中に取り入れることができる個別運動について学びます。

＜出講型＞

内容は、＜会場型＞1～4と同じです。会場と以下の物品を準備してください。

※受付期間は、令和5年度末までです。

実習1：ベッド1台、車椅子2台

（ベッドと車椅子がない場合は、椅子4～6脚（肘掛なし）で代用可能）

実習2：ベッド1台（ベッドがない場合は、床にマットで代用可能）

実習4：床に敷くマット（参加人数の半分の数：ペアになって実習を行います。）

全実習共通：椅子人数分（講義時に使用）

※日程や会場の広さ、定員等については、お気軽にご相談ください。

令和5年度 京都市地域リハビリテーション推進研修実施要領

1 目的

本研修は、リハビリテーションに関連する知識及び介護技術等の向上を目的とした研修を行うことにより、本市における地域リハビリテーションの推進及び充実を図るとともに、福祉・介護サービス等の質の向上に資することを目的とします。

2 受講対象者

次のいずれかに該当している方

- (1) 次に定める事業に従事する市内事業所の職員
 - ア 障害者総合支援法による障害福祉サービス等及び相談支援
 - イ 児童福祉法による障害児入所支援及び障害児通所支援
 - ウ 介護保険法による居宅サービス事業所、地域密着型サービス事業所、居宅介護支援事業所、介護予防サービス事業所、地域密着型介護予防サービス事業所、介護保険施設、介護予防・日常生活支援総合事業の第一号事業に係る指定事業所及び地域包括支援センター
- (2) 市内の総合支援学校及び育成学級等に勤務している教職員
- (3) 障害者の支援に関する業務に従事している本市職員
- (4) 障害者の支援等を行っている市内団体等に所属する方
- (5) 障害者雇用を進める企業に所属する方等
- (6) その他、研修内容に応じて、市長が認める方

京都市地域リハ推進研修

検索



3 日程及び内容

プログラムを御参照ください。

(当センターのホームページでも御確認いただけます。)

(センターホームページ)

4 受講形態

講座：会場での受講、又は、オンラインでの受講（注：会場でのみの講座があります。）

実習：会場型（当センターで実施）、又は、出講型（受講者側が準備した会場で実施）

5 会場及び定員

プログラムを御参照ください。

6 受講料：無 料

(出講型の実習で、会場に関わる費用が発生する場合は、受講者側で御負担ください。)

7 申込方法

以下の各申込フォームからお申込みください。

〔 講座を会場で受講する場合、及び、実習の場合は、FAXでも申し込めます。
FAX用申込様式は、ホームページからダウンロードできます。 〕

* 申込受付後、メール等で申込受理の連絡を行います。申込後、数日経っても連絡がない場合は、必ずお問い合わせください。

* 1つの端末で複数名が講座をオンライン受講される場合にも、1名ずつ申込みが必要です。

講座（7月～9月開催分）申込フォーム 申込期間：令和5年5月29日～9月26日

https://sc.city.kyoto.lg.jp/multiform/multiform.php?form_id=6778

講座（10月～11月開催分）申込フォーム 申込期間：令和5年9月1日～11月27日

https://sc.city.kyoto.lg.jp/multiform/multiform.php?form_id=6782

実習（会場型）申込フォーム：https://sc.city.kyoto.lg.jp/multiform/multiform.php?form_id=6780

実習（出講型）申込フォーム：https://sc.city.kyoto.lg.jp/multiform/multiform.php?form_id=6779

講座 (7月～9月) 申込フォーム		講座 (10月～11月) 申込フォーム		実習(会場型) 申込フォーム		実習(出講型) 申込フォーム	
-------------------------	---	---------------------------	---	-------------------	--	-------------------	---

8 申込締切：各開催日の2開庁日前（ただし、先着順で定員に達し次第、締め切ります。） 出講型の実習は、希望される日の1か月前までに申し込んでください。

締切後も、受講枠に空きがある場合は申込みを受け付けますので、お問い合わせください。

9 留意事項

- (1) やむを得ず欠席される場合は、受講形態に限らず必ず事前に御連絡ください。
- (2) 会場で講座を受講される方のうち、聴覚障害により手話通訳等が必要な方は、各講座の2週間前までに御連絡ください。
- (3) 会場へは、公共交通機関を御利用ください。特別な理由があり、車での来場が必要な場合は、事前に御相談ください。
- (4) 各研修開始3時間前の時点で、京都市に「暴風警報」又は「特別警報」が発令されている場合は、会場開催、オンライン開催ともに中止します。各自で御確認ください。
- (5) 研修会場は、細やかな温度調整ができません。衣類などで調整できるよう必要に応じて御準備ください。

- (6) 講座をオンラインで受講される場合は、インターネット接続が可能なパソコン等の端末、回線、及び、Zoom アプリケーションを御準備ください。（通信料は受講者負担）

＊開催2日前を目途に、Zoom 視聴用 ID、講義資料等を、申込時に記載いただいたアドレスに送信します。

＊セキュリティリスクを防ぐため、フリー Wi-Fi での接続は避けてください。

＊インターネットへの接続環境や技術的な障害によって、研修中に接続が切れる可能性があります。

＊当日、個別の操作説明や接続トラブルへの対応はできませんので、御了承ください。

- (7) その他、受講に際しての注意事項

以下に該当する事項は、固くお断りいたします。該当する行為が発見された場合は、御退場いただきます。また、講義内容の盗用が発覚次第、講師の著作権・肖像権侵害として厳重に対処します。

- ・講義の録画、録音、撮影 ・資料の二次利用 ・講義の詳細内容の SNS 等への投稿
- ・Zoom の ID 及びパスワードの無断共有（オンライン受講の場合）

10 当センターへのアクセス、問合せ先



※四条烏丸から

市バス（3、8、11、13、特13、26、29、91、203系統）
で「四条御前通」下車すぐ

※京都駅から

市バス（26、28、71系統）で「四条御前通」下車すぐ

※「阪急西院駅」「嵐電西院駅」下車、東へ徒歩3分

発行 ・ 問合せ先	〒604-8854 京都市中京区壬生仙念町 30 京都市地域リハビリテーション推進センター相談課 TEL 075-823-1666 FAX 075-842-1541 E-Mail rehabili-chiiki@city.kyoto.lg.jp （受付時間：土、日、祝日を除く午前8：30～午後5：00） 令和5年5月発行 京都市印刷物 第053049号
-----------------	--